

普及項目	養殖・流通
漁業種類等	養殖業
対象魚類	マガキ
対象海域	八代海

県南地区におけるマガキ養殖指導及び広域連携の取組み

県南広域本部水産課・上原 大知

【背景・目的・目標（指標）】

八代海では、あさり資源の減少、ノリ養殖の不振、漁船漁業における水揚量の減少等により、漁業者の経営環境は厳しさを増している。このような中、県南地区の 5 漁業協同組合（三角町、鏡町、芦北町、津奈木、水俣市（以下「5 漁協」という。））地先では、漁家収益の向上を目的としてマガキの養殖に取り組んでいるが、夏場の高水温や食害等による生残率の減少が課題となっている。

そこで、当課では、マガキ養殖の安定化を図るため、関係漁協及び養殖業者に対して、養殖管理指導等を通じて、生産の安定化やバスケットを用いた新たな養殖管理方法の導入に向けた指導・助言を行った。また、令和 6 年度（2024 年度）から新たにマガキ養殖試験に取り組む昭和漁業協同組合（以下「昭和漁協」という。）に対しても、養殖技術指導を行った。

【普及の内容・特徴】

（１）食害実態調査及び成育調査

令和 7 年（2025 年）6 月 2 日から 16 日にかけて、八代市鏡町地先の養殖筏にタイムラプスカメラ（図 2）を設置し、30 分間隔の撮影により、マガキの食害状況を調査した。

また、令和 7 年（2025 年）10 月には、5 漁協の各地先の養殖業者によるマガキ成育調査が行われ、当課では、生残個数及び殻付重量から重量別組成を算出し、過去の結果と比較した資料をまとめ、漁協、養殖業者及び関係市町へ情報提供した（図 3）。

（２）昭和漁協の養殖試験指導

昭和漁協では、令和 7 年（2025 年）2 月から約 12,000 個のマガキ種苗を用いた養殖試験を開始し、当課では、6 月、9 月及び令和 8 年（2026 年）2 月に現地確認を行い、サイズの測定方法等について指導を行った。

【成果・活用】

（１）食害実態調査及び成育調査結果の共有・指導

タイムラプスカメラで撮影された画像には、クロダイやボラ、コショウダイの姿が確認でき、特にクロダイがマガキをついばむ様子が写っていた（図 4）。撮影された画像は令和 7 年（2025 年）6 月に開催された「熊本県カキ類養殖生産者協議会」の養殖専門部会において養殖業者へ共有し、食害対策の必要性について注意喚起を行った。

成育調査では、令和 7 年度（2025 年度）の生産量は概ね例年並みと推定され、調査結果は、各漁協の今漁期の生産見通しの把握や出荷計画の検討に活用された。

(2) 昭和漁協の養殖試験指導

令和7年（2025年）2月に殻高約10mmで導入した種苗は、同年6月に約40mm、令和8年（2026年）2月に約60mmまで成長し、導入から約1年で出荷サイズに達することがわかった（図5）。また、種苗導入時の生残率は、約6割と良好であった。令和7年度（2025年度）は前年度より3か月程度早く種苗を導入し、より大型サイズのマガキ生産に取り組むこととしており、出荷に向けて、引き続き、指導を行うこととしている。

【達成度自己評価】

4 目標（指標）はほぼ達成できた（76～100%）

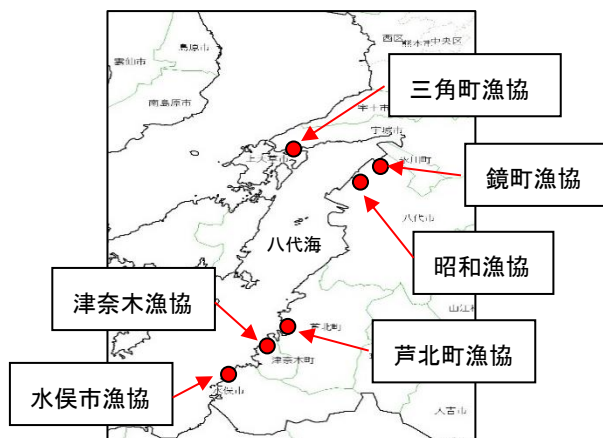


図1 位置図



図2 タイムラプスカメラ

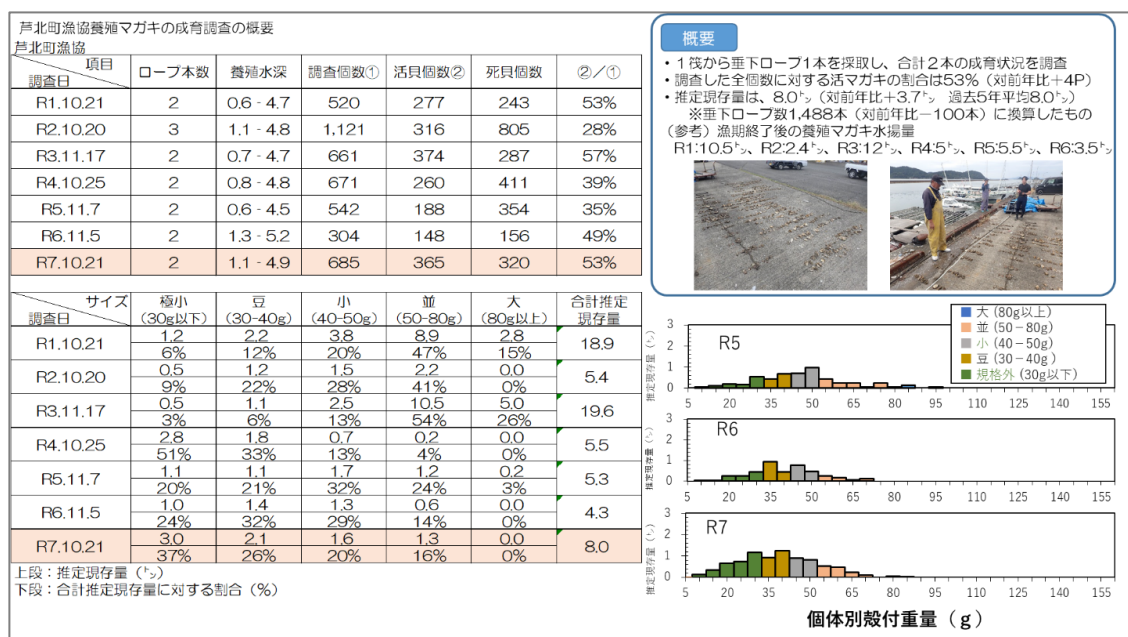


図3 マガキの生育調査の概要（芦北町）



図4 養殖筏にて撮影されたクロダイ (R7. 6. 13)



図5 昭和漁協の養殖試験で生産されたマガキ